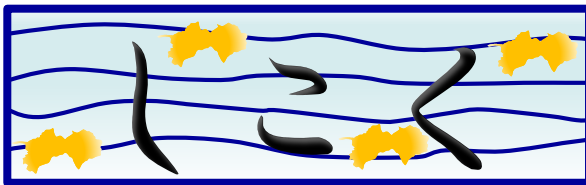


主な記事

国内における米陸軍との実動訓練 (OS21) (1面)
豪州における米豪軍との実動訓練 (SJ21) (1面)
旅団AASAM基幹要員(養成)集合訓練 (2面)
第1回旅団演習 (2面)



令和3年(2021年)6・7月 第168号

旅団長統率方針「任務必成」
旅団長要望事項「プロであれ」



陸上自衛隊第14旅団広報紙

発行所：第14旅団司令部総務課広報班
住所：香川県善通寺市南町2丁目1-1
電話：0877-62-2311 (内2256・2257)
メールアドレス：pr-14b-ma@inet.gsdf.mod.go.jp



国内における米陸軍との実動訓練



大量傷病者対処(共同CBRN)



陸上機動による攻撃前進(共同戦闘)

日米共同作戦 一相互連携要領を演練一

第14旅団(旅団長 遠藤 充陸将補)は、令和3年6月24日から7月9日までの間、「令和3年度国内における米陸軍との実動訓練(オリエン・シールド21)」に参加した。

本訓練は、国内の各演習場等において陸上自衛隊及び米陸軍の部隊が、それぞれの指揮系統に従い、共同して作戦を実施する場合における相互連携要領を実行動により演練し、共同対処能力の向上を図る事を目的として実施された。

第14旅団からは、第15即応機動連隊(連隊長 品川 淳二 1等陸佐)及び第14特殊武器防護隊(隊長 新美 賢一 3等陸佐)の他、統制部等の要員を含め約1200名が参加した。

米陸軍側からは、第28歩兵連隊第1大隊(大隊長 ペカ 中佐)、第340化学中隊(中隊長 セベランス 大尉)の約600名が参加し、各種共同訓練において日米相互の緊密な連携の下、小部隊の訓練から総合訓練まで段階的に行い訓練目的を達成した。

さらに、スポーツ交流及び音楽演奏等の文化交流行事を通じて日米相互の絆を深め信頼関係を築く等、多大の成果を上げ訓練を終了した。



第14音楽隊等による音楽演奏(交流行事)



砂盤を使用した報告・戦闘予行(共同CBRN)



地域除染(共同CBRN)



市街地戦闘訓練(小隊規模以下の機能別訓練)

豪州における米豪軍との実動訓練

日米豪の連携強化 戦術技量の向上を図る



左：陸上自衛隊(第50連隊 八木 2曹)
右上：豪陸軍
右下：米海兵隊

SJ21

(サザン・ジャッカル)

本訓練は、陸上自衛隊(第50普通科連隊(連隊長 溝口 光章 1等陸佐)基幹)、豪陸軍(第1旅団)及び米海兵隊(第3海兵機動展開部隊ダーウィンローテーション部隊)との3カ国の実動訓練を実施し、ATM(携帯対戦車誘導弾)・狙撃、市街地訓練及び総合訓練(林内における戦闘射撃)より、隊員・部隊の射撃及び戦術技量の向上を図った。

第14旅団は、5月23日から7月18日までの間、豪州ノーザン Territory リーズマウン・ト・バンディ演習場において豪州における米豪軍との実動訓練を実施し、戦術技量の向上及び米豪軍との連携の強化を図る目的として「令和3年度豪州における米豪軍との実動訓練(サザン・ジャッカル21)」に参加した。

旅団AASAM基幹要員(養成)集合訓練 「AASAM22」選手候補者決定!!

AASAM



旅団選考を勝ち残った6名の候補者

第14旅団は、4月20日から7月14日までの間、旅団管内のそれぞれの駐屯地及び射場においてAASAM基幹要員(養成)の練度向上を図る目的で「令和3年度旅団AASAM基幹要員(養成)集合訓練」を実施した。また、旅団AASAM要員を選考するとともに、方面選考会前の最終練成訓練を行い、方面選考会に参加した。

本訓練は、AASAM22方面選考要領の体力検査及び射撃選考要領を主体に練成訓練を実施するとともにAASAM21の成果等を普及した。

7月2日、第1回選考(戦闘射撃の部)で勝ち抜いた候補者8名により、第2回選考会を行い、方面選考会に参加する候補要員として戦闘射撃の部4名、狙撃の部2名が選考された。

7月15日から16日までの間、方面AASAM選考会に参加し、各師旅団の選考を勝ち抜いた候補者27名にAASAM訓練隊から指示されている実施規定(体力検査及び射撃の選考)に基づき行われ、中部方面隊の代表として戦闘射撃の部11名、狙撃の部2名が選考され、第14旅団からは、第15即応機動連隊機動戦闘車隊、市山和輝3等陸曹と、第14偵察隊 村田弥3等陸曹の2名が方面AASAM選考(戦闘射撃の部)を突破し、なお、村田3曹は2年連続トップの成績で通過した。

10月より富士学校で実施されるAASAM22に選手候補者として参加する。



射撃の選考(狙撃の部)



射撃の選考(戦闘射撃の部)



体力検査



迅速な射撃を行う砲班



射撃中のFH-70



正確・迅速な射弾の判定・修正を行う前進観測班



迅速・正確な射撃諸元の算定を行う指揮小隊



迅速に射撃の準備を行う砲班

旅団演習

中部方面特科隊実射訓練検閲を実施

第14旅団は、7月20日から29日までの間、東富士演習場(静岡県)において「令和3年度第1次旅団演習(中部方面特科隊実射訓練検閲)」を実施した。

本検閲は、中部方面特科隊に対し実射訓練検閲として「受閲部隊の射撃練度を評価・判定すること」を目的として行われた。

統裁官(旅団長 遠藤充陸将補)は、検閲に先立ち「全ての努力を弾先に集中させ、精度・速度を追求せよ」「安全管理の万全」の2点を要望した。

検閲課目として、修正射撃、ヘリから観測を行う空撃、空中観測の任務に対する即時射撃などが行われた。

作戦名「富士の雷作戦」と題して、中部方面特科隊長(服部真之介1等陸佐)を核心に、中部方面特科隊全隊員が一丸となり、極めて困難な状況においても迅速かつ正確な射撃を実施する等、日頃の練成の成果を遺憾なく発揮し、所望の成果を得て本検閲を終了した。



陸上自衛隊 第14旅団

逐次発信中!

陸上自衛隊
広報チャンネル陸上自衛隊広報チャンネル
(YouTube)に
「自衛隊式感染症予防」
を掲載中!

令和3年度自衛官候補生課程修了式

第50普通科連隊



祝 修了式 更なる飛躍に向けて

第50普通科連隊（連隊長 溝口光章 1等陸佐）は、6月27日、高知駐屯地において令和3年度自衛官候補生修了式を挙行しました。

新型コロナウイルス対策に万全を期し、部内外の来賓及び自衛官候補生の家族が見守る中、28名の自衛官候補生は、約3ヶ月の教育を乗り越え、入隊式の時とは見違えるような凛々しい姿を披露しました。



優秀隊員の表彰

また、28名は令和3年7月1日付をもつて2等陸士に任命されました。今後、



各駐屯地に旅立つ同期の見送り

それぞれの職種及び部隊で実施される新隊員特技課程での更なる成長を祈念致します。

第15即応機動連隊

『新たな門出』

第15即応機動連隊（連隊長 品川淳二 1等陸佐）は、6月25日、善通寺駐屯地儀礼よう広場において令和3年度自衛官候補生修了式を挙行了。

愛媛の各地方協力本部長の部内関係者のみの参列のもと実施した。

修了式には、自衛官候補生63名と指導部として教育にあたった30名の基幹要員が参加。新型コロナウイルス感染症の対策のため、隊員家族の参加は見送り、善通寺駐屯地司令（第14旅団副旅团长）や香川・徳島・



国旗に敬礼する自衛官候補生

自衛官候補生は、自衛官として必要な資質の涵養と基礎的知識や技能の習得のため、約3ヶ月にわたる厳しい教育訓練を通じて入隊当初よりも逞しく成長し、晴れて新たな門出の日を迎えた。修了式では、第2区隊の長濱凱弥候補生が代表して修了証書を受け取り、国民の負託に応えるべく、新たな1歩を踏み出した。

教育隊長（第15即応機動連隊副連隊長 松木昭彦 2等陸佐）は「これからが自衛官としての本番。善通寺駐屯地で同期と共に訓練を乗り越えたことを自信として、引き続き精進することを目指す」と述べ、自衛官候補生にエールを送った。

同期とともに幾多の訓練を乗り越えた自衛官候補生は、7月1日付けで自衛官（2等陸士）として正式に任命され、全国の部隊へと異動。引き続き約3ヶ月の教育（一般陸曹候補生後期及び新隊員特技課程教育）を受けた後に部隊勤務をスタートさせる。



同期を見送る自衛官候補生

修了所感

■第15即応機動連隊

連隊長賞 木田 龍之介

厳しい訓練もありましたが同期と助け合いながら乗り越えることができました。この教育で学んだことを生かして頑張りたいと思います。



教育隊長賞 長濱 凱弥

前期教育では、組織としての規律の大切さを学びました。この先も自衛官として克己心を持ち、それぞれの任地で活躍します。



教育隊長賞 佐藤 柊斗

この教育期間で同期の大切さを学びました。喜怒哀楽を共にすることでお互いに信頼し合えるようになり、助け合うことができました。



■第50普通科連隊

連隊長賞 福本 宏一

訓練や集団生活で様々な経験をたくさんしましたが、入隊前と比較すると、心身共に強くなり訓練に積極的に参加できるよう成長したと実感しています。前期教育で経験した事を活かし、人から尊敬されるような自衛官になれるよう努力していきます。





隊容検査



進入直後の索敵



射撃陣地での81mm迫撃砲の整備



重装輪回収車によるWAPCの回収

第14後方支援隊

第14後方支援隊(隊長 元雄一 陸佐)は、6月18日から21日の間、あいば野演習場(滋賀県)において令和3年度第1次隊訓練検閲を実施し、即応機動直接支援中隊(中隊長 櫛山翔吾 3等陸佐)の訓練練度を評価した。

即応機動直接支援中隊

第1次隊訓練検閲を受閲

本訓練検閲は、島嶼部での侵攻対処に当たる第15即応機動連隊に対する野整備直接支援を課目として設定しており、受閲部隊は訓練検閲に先立つ6月4日の想定受領以降、善通寺駐屯地において関係部隊等と綿密

に調整を実施し作戦準備を完成した。検閲実動では高温多湿の厳しい気象条件の中、3夜4日にわたり離島侵攻対処時の野整備支援を検した。受閲部隊は統裁官要望事項である「第15即応機動連

隊の戦力最大発揮のためにあらゆる支援をせよ、そして生き残れ」「安全管理」の2点と、中隊長要望事項の「創意を凝らせ」を胸に、各種施設の開設・運営・築城、各種整備及び回収支援等を中隊一丸となつて実施し、第15即応機動連隊の任務遂行に寄与する等、中隊の任務を完遂して状況を終了した。

前進観測班訓練

中部方面特科隊(隊長 服部真之介 1等陸佐)各射撃中隊前進観測班は、6月1日から7月21日の間、松山駐屯地において前進観測班訓練を実施した。本訓練は、7月下旬に行われる第1次旅団演習(隊実射検閲)に向け、旅団の対地火力の骨幹として、縦深にわたる火力戦闘により、旅団の任務必成に寄与すべく実施した。

中部方面特科隊

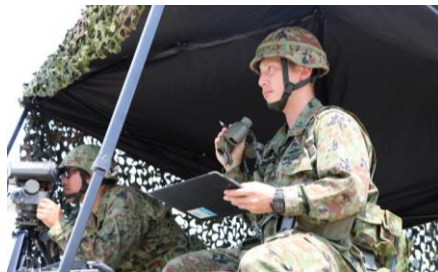
訓練所感



中部方面特科隊第3中隊
2等陸尉 白井克享



緊張の練度判定



真剣な表情の白井2尉



砂盤による弾着現示



隊長による指導

6月上旬から日々実施してきた間稽古において、目標精度向上のための測角器と測速器の取り扱い要領を反復演練するとともに、連絡陸曹への任務付与を的確に実施することで、F.Oの観測能力を段階的に向上できたと思う。

7月下旬の隊実射検閲では、緊張に溺れることや慢心に浸ることをせず、これまでの練成の成果を出すことが、旅団の任務達成への寄与に繋がると心に留め、中部方面特科隊の任務達成に貢献できるよう努めていきたい。

第14偵察隊

あらゆる状況に対応し

任務完遂



実機からの降下訓練

第14偵察隊(隊長 今村正文 2等陸佐)は、6月14日から22日までの間、あいば野演習場(滋賀県)において令和3年度第1次隊野営訓練を実施した。本訓練は、前段を第14飛行隊との協同訓練、後段を第1偵察小隊訓練検閲に区分して行った。統裁官は、善通寺駐屯地において隊容検査を実施し、準備状況を確認した。その際、「敵を意識して行動せよ」「生き残って情報を獲得せよ」「安全管理」の3点を要望事項として状況を開始した。前段訓練では、第14飛行隊との協同訓練を行い実機によるホイスト訓練、降下訓練及びオートバイ搭

載・卸下要領について練度の向上を図った。隊員の中には、初めて実機による訓練に参加する隊員がいたが、4月に実施したレンジャー塔における事前練成の成果もあり、不安な状態等が生起することなく、練度の向上が確認できた。後段訓練の第1偵察小隊(小隊長 澤島宗真 1等陸尉)の訓練検閲では、「離島防衛における偵察小隊としての行動」を課目として実施した。受閲小隊は、隊の先導小隊として、夜間の長距離機動、各種権限下における不法行動対処及び着上陸侵攻対処に資する情報資料の継続的な収集を実施し、任務を完遂した。

「施設の力」練成

第14施設隊



07式機動支援橋の架橋

第14施設隊（隊長 澤水隆一、二等陸佐）は、6月13日から18日までの間、あいば野演習場（滋賀県）において、令和3年度第3次隊野営を実施した。

本訓練は、第2施設小隊及び渡河器材小隊の訓練検閲であり、島嶼防衛における旅団の全般支援を任務とし、2夜3日の状況間で旅団指揮所、旅団長執務室の構築、汀線部障害の構成及び07式機動支援橋の架設を実施した。

各小隊は、炎天下での昼夜にわたる構築作業による、疲労困憊の中、教育訓練の成果を発揮し、任務を完遂し練度向上を図った。



07式機動支援橋架設のため近岸と遠岸の高低差を測量する隊員



旅団長執務室を構築する渡河器材小隊



ライナープレートを運搬する第2施設小隊



旅団指揮所を構築する第2施設小隊

第14通信隊



隊員の点検（隊容検査）



現地で補足命令を行う小隊長



指揮を行う小隊長



小隊長指揮の下、昼夜を通して掩蓋を構築する隊員

訓練検閲を実施 「小隊長を核心として」

第14通信隊（隊長 西山仁基、二等陸佐）は、6月10日から18日の間、あいば野演習場（滋賀県）で第3回隊練成訓練を実施した。

本訓練は、状況下における各通信組織の構成・維持・運営を行うとともに、通信連隊小隊、通信支援小隊及びシステム管理班の訓練検閲を実施した。

各小隊等は、10日、善通寺駐屯地において隊容検査を行い、13日、あいば野演習場に向け前進した。統裁官要望事項である「小隊長等を核心として最後まで気力・執念をもって任務を完遂せよ。」の下、基礎となる部隊の指揮要領、部隊の基本的行動及び隊員の基礎動作について練度を評価・判定した。

また、システム通信確保要領及び防衛法制に基づく行動を演練した。

隊員紹介

第14飛行隊



ヘリコプターからの射撃風景



アンパイヤガンを使用し、的を修復・採点を行う近藤士長

「模擬ドアガン射撃訓練に参加して」



第14飛行隊 陸士長 近藤 翼

第14飛行隊に所属している近藤翼陸士長です。

私は、6月7日国分台演習場（香川県）で実施された令和3年度模擬ドアガン射撃訓練に採点係として参加しました。

模擬ドアガン射撃の採点係は、バトラーを使用して採点する係です。写真でもある通り、アンパイヤガンを使用し、的を修復する作業も担任しました。また、私自身射撃訓練に参加することが初めてです。

今回の模擬ドアガン射撃訓練は、空包射撃及びバトラーを使用した訓練でしたが、周囲から常に安全を確保するという強い意志を感じ、自分自身も採点係として安全を意識して職務を遂行することができ、無事に訓練を終えることができました。

最後に、今回の採点係を通じて「何事にも事前に予習をすることが大事だ」と再認識することができ、これからの勤務にも生かして行きたいと思っています。

初めての経験で緊張していたのですが、事前に先輩や同僚の経験者に勤務内容を確認していた事により、率先して動くことができました。

今回の模擬ドアガン射撃訓練は、空包射撃及びバトラーを使用した訓練でしたが、周囲から常に安全を確保するという強い意志を感じ、自分自身も採点係として安全を意識して職務を遂行することができ、無事に訓練を終えることができました。

最後に、今回の採点係を通じて「何事にも事前に予習をすることが大事だ」と再認識することができ、これからの勤務にも生かして行きたいと思っています。

師団等対空実射訓練で日本一

空は任せる!!

第14高射特科隊



11短SAM(左)、近SAM(右)誘導弾発射の瞬間

第14高射特科隊(隊長 富高英和2等陸佐)は、6月9日から17日及び7月11日から24日の間、静内対空射撃場(北海道)で実施する、令和3年度師団等対空実射訓練に参加した。本訓練は、93式近距離地对空誘導弾(近SAM)及び11式短距離地对空誘導弾(11短SAM)等を保有する全国の師・旅団高射特科部隊が射撃準備、模擬実射及び対空実射それぞれの評価を受ける高射特科部隊として最大規模の訓練である。

訓練に参加した近SAM小隊は、小隊長(渡邊悟司3等陸尉)を核心とし、6月3日から姫路駐屯地における転地訓練により練度を向上させた後、北海道入りした。静内対空射撃場においてもその練度を更に向上させるため、評価直前まで練成し、6月13日に模擬実射評価、翌14日に射撃準備評価及び対空実射評価を受け、要撃成功の成果を収めるとともに、今年度の全国の近SAM対空実射において第1位の評価を受けた。

近SAM小隊発射班長(高橋史和2等陸曹)は「第14高射特科隊が一丸となり最高の1発を発射することができた。」と語り、搜索手として初の実射を経験した近藤滉己陸士長は「搜索手として選抜され多少の不安があったが、最後まで全力で挑み任務遂行することができた。」と語った。

また、11式短距離地对空誘導弾(11短SAM)の対空実射において、短SAM



実射を終えた短SAM小隊メンバー



全国1位となった近SAM小隊メンバー

小隊は小隊長(平野頌3等陸尉)を核心として7月11日から22日までの間、南恵庭駐屯地(北海道)において練成を重ね、7月23日に模擬実射評価、翌24日に射撃準備評価及び対空実射の評価を受け、見事要撃成功の成果を収めた。

第14高射特科隊は、今年度の対空実射において両小隊とも要撃成功の評価を収めることが出来たが、プロであり続けるため、今後も更なる練度の向上を目指す。



部隊除染(人員除染所)



集結地占領命令(戦闘指導)

第14特殊武器防護隊

第3回隊訓練を実施

第14特殊武器防護隊(隊長 新美賢一3等陸佐)は、7月25日から28日までの間、日本原演習場(岡山県)において基礎となる部隊の訓練を目的として令和3年度第3回隊訓練を実施した。

本訓練は酷暑の中、熱中症予防に注意しながら集結地の占領、自衛警戒戦闘及び部隊除染所の開設・運営を演練し、基本・基礎動作等の練度向上を図った。

第14旅団司令部付隊

音楽隊協同訓練(野外炊事訓練)で野外炊事能力を向上

第14旅団司令部付隊(隊長 土井明3等陸佐)は、6月3日、国分台演習場古田廠舎(香川県)において、第14旅団司令部付隊管理班及び第14音楽隊で令和3年度音楽隊協同訓練(野外炊事訓練)を実施した。

本訓練は、炊事長・各組長の指揮、指導能力の向上及び炊事実務者の練度を向上させることを目的とし、2個分隊で編成した。

1分隊は、炊事長・各組長及び炊事実務者に対し直接指導を行い、2分隊は、主食、副食及びご飯の調理を組分けして実施した。

献立は、訓練中の隊員に對して士気の高揚を図ることを主眼として、カレーライス・マカロニサラダ・生野菜・フルーツヨーグルトを選定した。

事前に、座学による衛生管理教育及び料理工程を炊事実務者に対し教育し、訓練当日、野外炊具1号(22改)の操作訓練を炊事実務者全員に対し実施し、料理工程の再度徹底及び個人衛生管理の点検を行い各組に分かれ調理を開始した。



本日のメニュー



仕込みを行う第14音楽隊隊員

炊事長・各組長は、指導のにもと、戸惑いながらも適切に組員に対して指示し、73名分の料理を完成させ、また、野外炊事が初めて音楽隊隊員は、炊事長及び各組長の指示・指導に對し、真摯に炊事業務を実施するとともに、手際よく仕込み・料理を行い、炊事練度向上の成果を得ることができた。

喫食者からは、全般的に「美味しかった!」との評価であったが、「カレー」とろみが無い」、「ご飯が少しベチャツとしている」との言葉を受け、この指摘を真摯に受け止め、本訓練で得た教訓事項や課題について改善し、引き続き各種訓練を通じて練成し、部隊の人的戦闘力の発揮及び士気の高揚を図るため炊事練度を向上していく所存である。

らっぱ手のための ワンポイントレッスン vol.7

第14音楽隊



今回のワンポイントレッスンは『練習時間』について話したいと思います。

信号らっぱは、リコーダーと違い息を入れただけでは音が出ません。息を入れる事によって唇が振動し、その振動が音になります。駆け足は毎日コツコツ走る事によってタイムが上がります。信号らっぱも同様で、練習を怠ってしまうと唇の筋肉がどんどん衰え、良い吹奏には結びつかなくなります。日々の訓練・業務に忙しいと思います。長時間練習すれば良いのではなく、短時間でも密度の濃い練習を日々積み重ねる事によって、常に一定のコンディションを保つ事が出来ます！（ここに私が断言します！）



では次に、音楽隊の近況報告です。

6月11日及び12日に、高知駐屯地及び松山駐屯地においてランチタイムコンサートを行いました。隊員の士気の高揚を図るとともに、日常業務の疲労からの解放感を得てもらう事が目的です。

今回はいつもの編成や演奏とは異なり、コンボ（小編成ジャズ・バンド）メンバーでポップスやジャズを中心に演奏しました。

昼間の強い日差し中でも、笑顔で聴いてくれる隊員達の顔を見ると、音楽隊員の演奏にも更に熱が入りました。演奏を聴いてくれる人と共に音楽を楽しむ事ができるのは「野外演奏の醍醐味である」と実感した日でした。

部内

部内・外表彰

- 第201期陸曹上級課程
中部方面混成団長賞
第15即応機動連隊第1普通科中隊
1等陸曹 洪谷 健
上級陸曹教育中隊長賞
第15即応機動連隊第1普通科中隊
1等陸曹 大石 誠
第15即応機動連隊第2普通科中隊
1等陸曹 出井 拓広
■第64期生徒陸曹候補生課程
中部方面総監賞
第15即応機動連隊第1普通科中隊
陸士長 本馬場 天空

- 第138期初級陸曹特技課程
第4陸曹教育隊長賞
第15即応機動連隊第2普通科中隊
3等陸曹 玉木 優
3等陸曹 河野 凌也
第5陸曹教育隊長賞
第15即応機動連隊火力支援中隊
3等陸曹 別府 翔
■第243期上級陸曹特技課程「部隊化学」
化学学校長賞
第50普通科連隊重迫撃砲中隊
3等陸曹 下条 弘史
■駐屯地等曹友会褒賞
曹友連合会長
中部方面特科隊本部管理中隊
2等陸曹 森本 伸吾

部外

- 善行隊員「褒賞」（高知駐屯地司令）
救護活動（3.7.4）
第50普通科連隊本部管理中隊
2等陸曹 有田 大介
3等陸曹 坂東 幸二
3等陸曹 中平 力樹
陸士長 奥村 彩乃
陸士長 田村 龍佑
陸士長 古田 翼
1等陸士 国沢 佑斗
■第76回国民体育大会剣道高知県予選会
優勝（三重ことわか国体（剣道）
高知県代表選出）
第50普通科連隊第1中隊
1等陸曹 三原 大和（中堅）
第50普通科連隊第3中隊
2等陸曹 高木 郁（副将）
3等陸曹 上岡 祐太（次鋒）

隊員投稿

「新たな勤務地で」

第14施設隊
3等陸曹 桁山 定



私たち家族は、令和3年3月の異動で第5施設団第9施設群より異動してきました。家族構成は、妻、4歳の娘、0歳の息子の4人家族です。3年前にマイホームを購入し初めての単身赴任となります。子供がまだ小さいため、妻への負担が大きいと思います、少しでも負担を和らげるために毎月1回は自宅に帰って、家族サービスをしています。部隊の話になりますが、転属に際し今まで交流がほとんどなかった部隊だったので、個人的な知り合いもなく不安な気持ちでしたが、第14施設隊の方々は親切で明るい方が多く笑顔の

絶えない部隊だなと思いました。小隊検閲も経験し同じ施設作業でもやり方が違うので自分自身、新しいことは吸収し、提案できることはしながらより良い人事交流に出来たらと思っています。これからもよろしくお願います。

